

第3回 グループ会議（自然・社会環境分野） 議事骨子

開催日時	平成19年10月22日（月）
開催場所	和歌山JAビル 第12会場
出席者	委員8人、河川管理者等3人

自然・社会環境分野の第3回グループ会議が開催され、編集会議で修正された自然環境および社会環境の現状と課題の内容について審議が行われた。会議の議事骨子は以下のようである。

1. 「自然環境の現状と課題」について

委員からの主な意見は以下のとおりである。

(1) 現状

- ・ 「生産者である藻類」の「生産者」の意味がわかりにくいので（ ）書きで意味を添えること。〔例：生産者（有機物を生産するという意）〕

(2) 課題

◇水質の劣化（大腸菌対策）・下水道整備

- ・ 下水に関する名称が混在してわかりにくい。「下水道」はあくまでも管路を含む排水路を示す言葉なので、「下水処理施設」とするべきである。
- ・ タイトルの「下水道整備」については、「下水処理施設の整備」とするべきである。
- ・ 文中に「浄化事業」とあるが、内容がわからないので正式名称で記載すること。

◇流砂と河床形状および河川敷と河岸の植生管理

- ・ 相野谷川の土砂堆積については、最近の事象であるためデータが無く、不明な点が多い。河床掘削しても、再度洪水で堆積する可能性があり、しばらく見守った方が良いのではないか。

◇生息生物（植物・魚類）の把握と外来魚対策

- ・ 天然記念物のヤマトイワナは、天川村の弥山川にも生息しており、明記する必要がある。

2. 「社会環境の現状と課題」について

委員からの主な意見は以下のとおりである。

(1) 現状

◇歴史・文化

- ・ 熊野川中流域の左支川、楊枝川の流域は、かつては銅鉱石を産出する鉱山が操業していた。歴史は古く、奈良東大寺の大仏建立にあたって、大量の銅が供出されたという記録がある。近代鉱山として創業を開始したのは昭和30年代からであり、戦中・戦後には、国内屈指の鉱山として栄華を極めたが、海外からの輸入の増加により1978年を最後に廃鉱となった。このような歴史がある紀州鉱山は、産業遺跡として価値のあるものであり、現状に記載すべきである。〔例：近世の交易交通遺跡や戦中戦後に国内屈指の鉱山として栄えた紀州鉱山などの産業遺跡もある。〕

(2) 課題

◇地域振興

- ・ 天然林施業という言葉を用いるのは問題ないが、文章中に「天然林」と「自然林」が混在して使われているため、「自然林」に統一する必要がある。

◇歴史・文化

- ・ 高校生・中学生・小学生の語り部養成については、語り部の養成に目的を絞るのではなく、地域の歴史や文化を学ぶための活動の一環として考える必要があるのではないか。

◇景観

- ・ 文中の「人工物」は「人工構造物」に修正する。
- ・ 文中の「熊野太郎」という表現は「熊野川」に修正する。